

キャラクター名 【探求者】N.S. プレイヤー名

種族	ルーンフォーク	種族特徴	暗視、HP変換		
生まれ	魔動機師	性別	女	年齢	2
冒険者Lv	12	経歴	5人以上の兄弟姉妹がいる (いた)		
経験点	5210		死を恐れていない 師と呼べる人物がいる		

技	12	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
		器用度	10	8		30 + 1	5
体	8	敏捷度	6	11		29 + 2	5
		筋力	9	8		25	4
心	6	生命力	5	6		19	3
		知力	7	5		18	3
		精神力	5	7		18	3

技能	Lv.	技能	Lv.	技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	12						
マジテック	6						
スカウト	7						
エンハンサー	6						
アルケミスト	3						
ライダー	1						

戦闘特技			
タフネス	2122p		p
トレジャーハント	2120p		p
ファストアクション	2123p		p
武器習熟A/ソード	1B31p		p
なぎ払い	1B38p		p
両手利き	1B32p		p
魔力撃	1B39p		p
マルチアクション	1B39p		p
頑強	1B29p		p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	12	17	17	16
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要			
		ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	プレートアーマー		24	-2	9
盾	タワーシールド				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	ファイター	合計値	15	10	

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魔法のフランベルジュ	1H両	23	1	2d+ 18	10	18	28										
魔法のフランベルジュ両手	2H	23	1	2d+ 18	10	18	38										
魔法の武器+1																	
魔法のフランベルジュ両手	2H	23	1	2d+ 18	10	18	38										
魔法の武器+1																	
OMバスタードソード	1H両	15		2d+ 17	10	17	15										
OMバスタードソード両手	2H	15		2d+ 17	10	17	25										
【干将】	1H	15	1	2d+ 18	10	18	20										
OMディフェンダー (必要筋力+3、防護点+1 (重複可))、魔法の武器+1																	
【莫耶】	1H	15	1	2d+ 18	10	18	20										
OMディフェンダー (必要筋力+3、防護点+1 (重複可))、魔法の武器+1																	
クリポンフランベルジュ	1H両	23		2d+ 17	10	17	28										
クリポンフランベルジュ	2H	23		2d+ 17	10	17	38										

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 _m	31 _m	93 _m	2d+ 15	10	82
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP	
2d+ 4/X	2d+ 12	2d+ 15	2d+ 15	38	

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
魔動機術	6	9			

装備品		説明
頭	70-ティンガスフィア (大)	タゲサ/エフェポン/EXPAのOPつき
耳	70-ティンガスフィア (大)	AMF/レジボム/オトガのOPつき
顔	マジスフィア (小)	クリポンのOPつき
首	血水晶のチョーカー	
背中	ウェポンホルダー改	
右手	疾風の腕輪	
腰	専用化多機能ブラックベルト	
足	専用化幸運の羽	
その他	ポーションインジェクター	スカレ入り

装備品		説明
左手	巧みの指輪	
	マジスフィア (小)	クリポンのOPつき

— その他メモ —

2年前、とある冒険者兼貴族 (リチャード=ハウード) によって眠っていたジェネレーターを発見され、稼働する。ジェネレーターには彼女の製造番号 (New-006) と、その概要があり、それにより、彼女が二重型ルーンフォークの6号機だと判明。どうやら、ジェネレーターの不具合が原因で起動が遅れた模様。また、それに伴い、感情や記憶、経験というものが無い。それ故に、本人は自分を失敗作としている。だが、ルーンフォークとしての技能や一般常識等は、かろうじてインプットされていた。

自覚めて最初の年は機能性チェック及び、様子見ということで貴族の屋敷にて生活していた。当初、彼女は、ルーンフォークとしての本能から貴族に仕えることを望んだが、それを断られた。そのことも、彼女が自分を失敗作だとするのには拍車をかけている。

その翌年、十分に冒険者としての知識がついたと判断した貴族によって唐突に屋敷を出され、彼女は、それを当然のように受け入れた。

自動失敗
チェック
□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑱
□□□□⑳
□□□□㉑
□□□□㉒
□□□□㉓

